

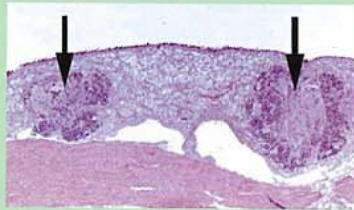
# 生物機能部

## 研究の内容(目的)

- ・魚介類の体内の状態や成熟現象と水温など環境との関係を遺伝子・タンパク質から調べ、天然の資源の調査・管理に応用するための研究
- ・天然の魚貝類資源の適正な管理のために、生物の種類や集団をDNA等で識別する研究
- ・魚の骨やウロコの形成や成熟・産卵などとホルモンや環境との関係を調べ、天然の資源調査・管理に役立てる研究

## 分子生物研究室

環境が変わった時、貝の遺伝子がどう変化するかを調べ、資源の調査や環境汚染防止に役立てる研究を行っている。



カキの神経節(矢印)の遺伝子発現の変化を調べる



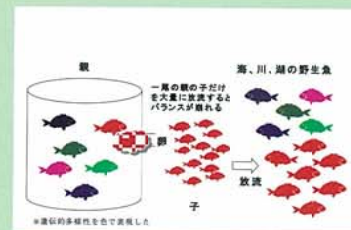
アワビを飼育して環境汚染物質の影響を調べる

## 細胞生物研究室

DNA多型を天然資源の管理に役立てるための基礎的研究及び魚類の環境ストレス応答の細胞生物学的研究を行っている。



魚類のストレスタンパク質の検出



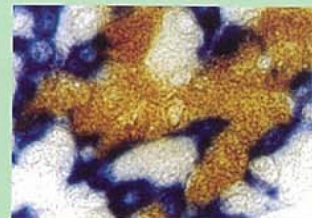
放流種苗の多様性を維持する

## 生物特性研究室

多様な資源生物や実験魚における骨形成機構や成熟現象の解析と、それらを調節するホルモン等の生理生化学的、分子生物学的特性についての研究を行っている。



骨(赤)と軟骨(青)の二重染色



二重免疫染色法を用いたホルモン産生細胞の染め分け